

種名称 (学名)	ギシギシ <i>Rumex japonicus</i>		参考文献：川の生物図典						
カテゴリー	分類：被子植物双子葉離弁花類タデ科 別名：ウシスイカ、ヘビスイコ、ダイオウほか 生活型：多年草、直立型								
本種写真	生息環境写真	分布	形態	類似種	生育場所	繁殖	他の生物との関係	配慮のポイント	トピックス
 	  	日本全土、朝鮮半島、中国、千島、樺太に分布する。	<p>根：根は黄色で、太くて大きい。</p> <p>茎：茎は直立し、緑色で高さ40～100cmになり、上部で分枝する。</p> <p>葉：根ぎわから出る根生葉（ロゼット）と茎につく葉であり、根生葉で越冬する。葉の形は長楕円披針形で先は尖り、基部は円形ないし心形、葉の縁は波状に縮れる。根生葉は柄が長い、茎につく葉は柄が短い。</p> <p>花：花期は5～7月。茎の上部の節々に細い柄を持った多数の花を輪生する。また、枝を出してこれにも花をつけ全体が大きな円錐状の穂になる。</p> <p>萼片6片のうち、内側の3片は花後発達して長さ4～5mmの心形となり、縁に低い鋸歯を持ち、中央脈の基部が膨らんでこぶ状となる。</p> <p>果実：果実は瘦果で広卵形、鋭い3稜があり、先は尖る。褐色で光沢がある。</p>	<p>アレチギシギシの根生葉はギシギシより薄く、長楕円状の披針形で長い柄がある。茎と葉脈はしばしば赤みを帯びる。果実を包む翼は長卵形で縁に鋸歯がない。果実は小型で疎らにつく。</p> <p>エンノギシギシ（ヒロハギシギシ）の根生葉はギシギシより薄く、長楕円形で葉柄がある。葉の裏面の脈上に毛状突起が密につく。果実の翼は卵形で、縁に小さな刺がある。果実は密につき、こぶ状突起の赤色がよく目立つ。</p> <p>ナカバギシギシの葉は細く、へりが著しく縮むことなどで区別できる。</p>	<p>河原や水路などの湿った肥沃地、田の畦、畑の周囲、荒地、堤防の斜面、道端、人工草地などにも生育する。</p> <p>河川では中流から下流の、低水敷の流水辺の粗砂から粘土のところに生育する。富栄養化にも強い。</p> <p>ギシギシ群落はナカバギシギシーギシギシ群集にまとめられる。</p>	<p>繁殖は根と種子で行なう。</p> <p>花期は5～7月。結実して瘦果ができる。種子は植物体の周辺に落下する。栄養繁殖では黄色い太い根を伸ばし、その上から芽を出して繁殖する。</p>	<p>蝶類のベニシジミの主要な食草の1つ。</p>	<p>○繁殖力が強いので、はびこると強害草となる。場合によっては適当に排除する必要がある。</p>	<p>○若芽は食用となる。</p>